

第4回国会等移転課題別講演会要旨

1. 日 時 平成11年7月23日(金)午前11時~12時30分
2. 場 所 栃木県総合文化センターメインホール
3. 参加者 800名
4. 内 容 「高付加価値の新首都建設を考える - 国会等移転に関連して - 」

- 首都機能移転を公共投資のぶち上げプロジェクトというか、景気回復の目玉商品として位置づけるのではなく、21世紀の日本を創造していくための社会変革のテコとして首都機能移転を位置づけるならば、大変意味がある。だから、高付加価値の新首都建設にこだわっている。
- いくつかのキーワードを挙げていきたい。まず一つは、「環境保全型の実験都市」。生ゴミまで含めて、完全リサイクルする都市を目指すという目標を明快な数字で掲げたとなると、環境保全型の技術開発に関心を持っている会社はにわかに殺気立つ。日本全体の環境保全型技術に取り組む人達に、大変大きな機会を提供することになる。明快なターゲットにして、付加価値を誘発するテコにすることが重要である。
- 2番目は「国際中核都市としての新首都を目指す」。ジュネーブモデルと言う表現をするが、スイスのジュネーブという町は15の国連機関が本部を持っていて、国際情報密度の高い、何度でも訪れたいと思うような町である。新首都についても国際都市としての顔をつけないとダメということをお願いしたい。
- 日本人は、国際化は外に出ていくことだと思っている。しかし、これから重要になってくるのは、アトラクティブネス(魅力)を引きつける力。新首都が毎年40万人の国際機関関係者が訪れるような町になったならば、核攻撃はできないので、日本の総合保障安全戦略にとっても大変意味のあることである。
- 3番目は「住環境と情報インフラ整備都市」。日本が立ち遅れている分野、住環境と情報。日本人の平均的な住環境は公務員住宅というイメージだが、21世紀の日本人は、少なくともこれぐらいのスペースに住むんだ、これだけの条件を整えたところに住むんだという意志を明示することは大切なことである。
- 情報インフラの整備について、情報ネットワークの時代に情報ネットワークの中核として、ハブ-センターとしての新首都を創ってみることは、大変意味がある。21世紀は、核兵器で国家の格が決まる時代ではなくて、情報のシステム化によって国家の格が決まる、情報化がその国の将来を決めるといふくらい重要な時代になるからである。
- 4番目は「文化性重視の実験都市」。「人間の顔をした都市」と言い換えてもいい。ワシントンには、スミソニアン博物館群があるが、それを維持している仕組みに注目すべきで、家庭の主婦等の参加型NPOとかボランティアが支えている。アメリカには、社会的な目的性の高い分野を低いコストで、ただ働きでなく、年収300万円、400万円のコストで支えている人が1000万人も層厚くいることが、国の活性化にとって意味がある。NPOだけでなく、ボランティア、全く無償でスミソニアンのシステムを支えている人達が、ワシントンという町を非常に文化性の高い参加型の街にしている。
- ただし、絶対条件として必要なのは、女性たち、若い人達の参加をどうやって設計するかということ

で、日本では新首都の議論の中に、若い人とか女性の顔が見えないというのはものすごくまずい。

- 5番目は、「政治と経済の分離のメリット」。ワシントンとニューヨークの両方に住んでの実感だが、この距離感は絶妙である。飛行機で1時間、車で2時間半ぐらい。政治セクターで動いている人と面談をする場合、頭を冷やし、資料を整理し、ただ自分の業界とかの利害だけでなく、世の中とのバランスも考えてみて、物事をきちんと公明性、透明性を持って進めていくためにも非常に重要である。
- また、震災列島である日本の安全弁として、政治と経済の中心を分けて設計することは、決して二重投資ではない。
- 以上の5つを踏まえ、「パラダイム・ジャンプ」という言葉を用いたい。パラダイムを変えるために勇気を持って、日本の新しい時代を創ろうとする意志があるかどうか。多くの人たちに挑戦するテーマを提供しながら、この国のパラダイムを変えていこうじゃないかというのが、まさに直面しているテーマである。
- 日本が発信している、日本人の知恵が凝縮している「マクロエンジニアリング」型の話はほとんどないが、海外から非常に関心を持たれているのが首都機能移転。先程の5つのキーワードをしっかり実現していく気迫があれば、最低200兆円から300兆円のプロジェクトにしていける。日本のGDP 2%を10年間押し上げていくプロジェクトになる。
- 「ソーシャル・エンジニアリング - 社会工学」は、今の日本人に一番かけている発想。皆に公共心を持ってというような精神作興運動ではなく、仕組みをつくるのが社会工学である。だから、NPOを使った参画型の方式が大変重要になる。
- 次のパラダイムにジャンプするためにも、西日本国土軸から脱皮しなければいけない。世界の首都はみんな北にあり、日本の首都は南過ぎるとというのが基本的な視点。環境優先型の新首都を考えたとき、仕事を終えて10分後に自然環境に溶け込めるような立地を想定した方がいいという考え方からすれば、北にあがった方がいいと思っている。
- 国際空港アクセスも重要なキーワードであり、地上交通システムと空港のリンケージで相当新しい構想力が問われるだろうと思っている。
- エンジニアリングというのは、知恵比べなんだ、知恵をどうやって凝縮するかによって、このプロジェクトの意味がまるで変わってくるんだということを考えるヒントにして欲しい。